

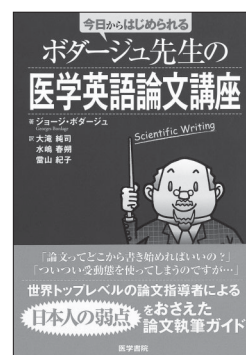


ジョージ・ボダージュ (Georges Bordage) ●著
大滝 純司, 水嶋 春朔, 富山 紀子●訳

『ボダージュ先生の医学英語論文講座』

書評者

新保 卓郎 (国立国際医療センター研究所医療情報解析研究部長)



今やあまたのコミュニケーション技術が利用され、個人は多数の表現手段で社会とつながっている。論文を作成するというのも、1つのコミュニケーションの手段であろう。自分の経験や思考を自分の中だけにとどめず、皆が共有できる情報として伝えていく。

論文を書くことそのものが、コミュニケーション技能を磨くための重要な医学研修の方法であろう。論文を書こうと思えば、読者の思考の流れに思いを馳せなければまとめることができない。この方法の習得に、近道はないものと思われる。多数の医学文献を読み、論文作成の経験を積み、同僚や上司から指摘を繰り返し受け、多数の reject letter を積み重ねて、修得されるものであろう。しかし手引きがあればありがたい。本書はこのような論文作成の優れた手引き書である。ポイントが簡潔に整理され、まとめられている。恐らく半日で読み終える分量であろう。そ

の中に重要なエッセンスが多数盛り込まれている。

著者のボダージュ先生は、東京大学医学教育国際協力研究センターに3代目の客員教授として来日された。ご自身が診断推論に関して重要な報告を多数なされており、また医学教育の領域では重要な雑誌である Medical Education 誌の編集委員長である。このため日本人に何を伝えればよいのか、詳しい。

本書に記載されている内容は、論文の構成、英語の用い方、査読者・編集者がどのような点を評価するかなどについての解説である。いずれも論文をまとめる時点では知っておくべき重要なトピックスである。一読すれば、自分でも何とか論文が書けるような気になる。また英語論文の記載に関する教科書をさらに読んでみたいと思う入り口となる書である。

自分が本書を読んだのは、ちょうど

1つの論文を執筆中の時期であった。立ち止まって自分の技量を見直すためのツールとなった。脱稿時に本書のチェックリストを用いれば、自信を持って書き終えたと判断できるであろう。

臨床医にとって論文作成にかけられる時間は極めて限定されており、ときには私的な時間を削ってこれに充てる。それだけに効率的に実施したい。英語は専門業者に依頼すれば校正はしてくれる。しかしなるべく正しい英語で原文を作成して校正を依頼するほうが、誤解も少なく、完成度も高まる。

よい論文作成のためには、いくつかのポイントがあることを本書は教えてくれる。

A5 頁128 2009年 医学書院刊
定価2,625円(本体2,500円+税5%)
[ISBN978-4-260-00593-7]